

基礎

[砕石基礎の場合]

- ① 沈下の原因にもなりますので、埋め戻しには十分な転圧を行なって下さい。
- ② 接合部に、コンクリート基礎版を用いると施工がし易くなります。

[コンクリート基礎の場合]

- ① 敷きモルタルは20mm程度が良いです。厚すぎると高さが決めにくくなります。
- ② キャンバーかライナープレートで高さを決める場合は、底面に隙間ができないように側部からモルタルを充填して下さい。

吊り方

[φ150、φ200の場合]

L=1000mm製品は、お手数ですが胴巻き吊りにてお願いします。

[φ600以下の場合]

- ① 管頂部の吊り穴に、ジャック吊り具を装着して、1点吊りにて吊り上げて下さい。
ワイヤーロープは、太さ16ミリ以上をご使用ください。

[φ700以上の場合]

- ① 管頂部の吊り穴に、ジャック吊り具を装着して、2点吊りにて吊り上げて下さい。
ワイヤーロープは太さ16ミリ以上をご使用ください。

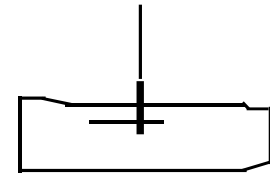
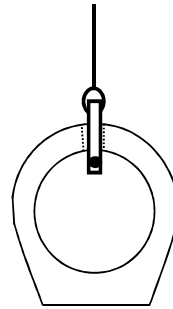
管 径	吊りワイヤーの長さL(m)
φ700 ~ φ1200	2.5m 以上

注1) 吊り穴の後処理は、樹脂キャップをして、モルタルにて埋めて下さい。

注2) 管を吊り上げたまま、衝撃を与えないで下さい。

φ600以下の場合

ジャック吊り具

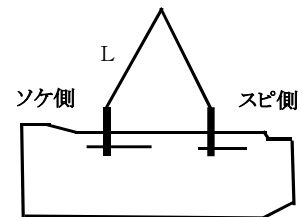


φ700以上の場合

(φ700～φ1000は、スピ・ソケ共黄緑色の吊り具)

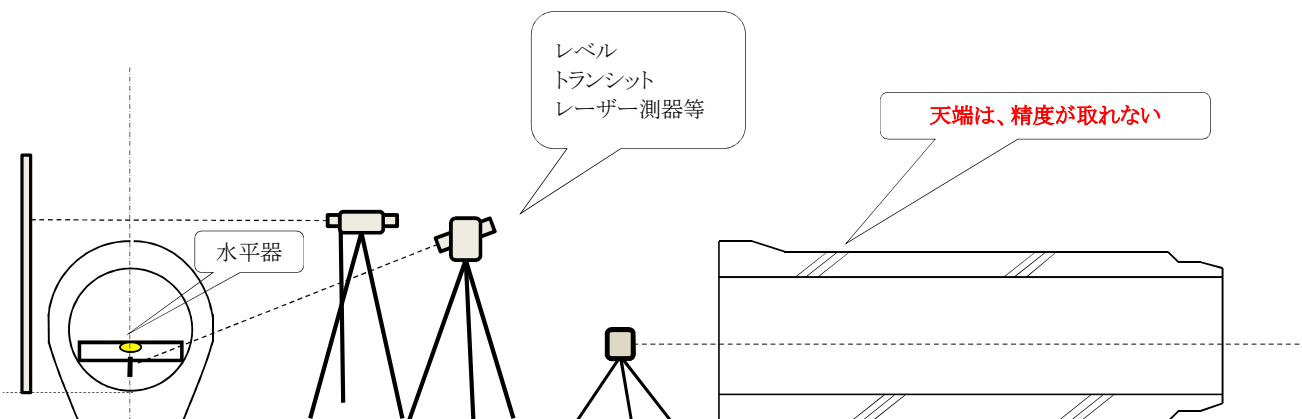
(φ1100は、スピ側を赤色の吊り具、ソケ側は黄緑色吊り具)

(φ1200は、スピ・ソケ共赤色の吊り具)



芯出し及び、高さ決め

- ① ヒューム管などの在来品とは全く異なった製法によるパイプですので、芯出し・高さ決めについては内面を基準にして下さい。



接合の準備

埋込ゴムジョイントタイプ (BZ形)

- ① 接合部分の汚れは、あらかじめ、きれいに拭き取っておいて下さい。
- ② 埋込ゴムジョイントタイプ (BZ形) の台付管は、接合をなめらかにする為に、表-1の滑剤使用量を目安にスピゴット部と、ソケット部の埋込ゴムジョイントの頂部に、滑剤を多めに塗って下さい。

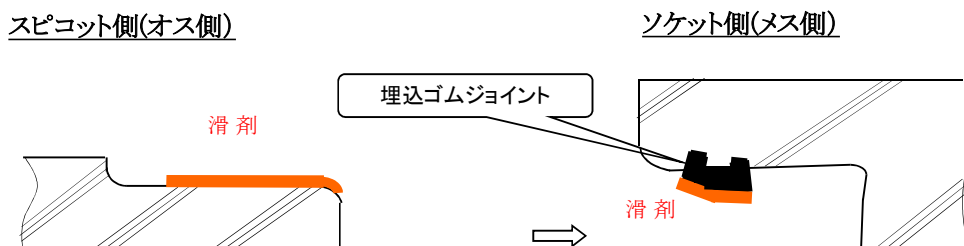
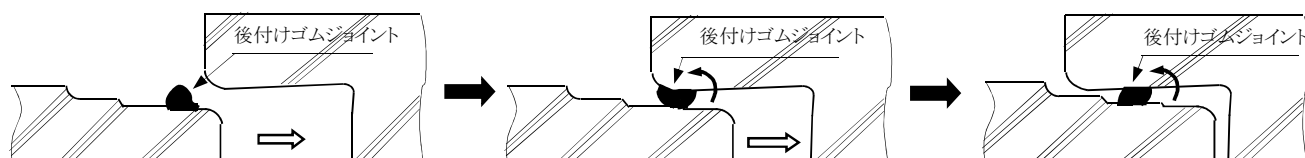
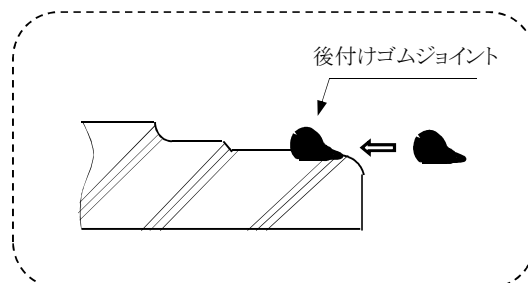


表-1 埋込ゴムジョイントタイプ台付管の滑剤使用量の目安

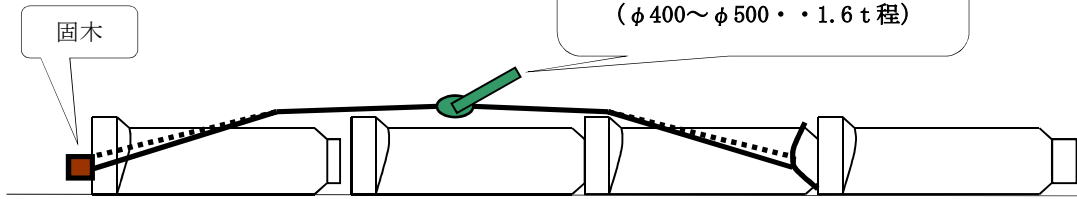
呼び径	250g入り	
φ 300	4袋	
φ 350		
φ 400	3袋	
φ 450		
φ 500	2袋	
φ 600		
φ 1100	1袋	
φ 1200		

後付けゴムジョイントタイプ (VP形)

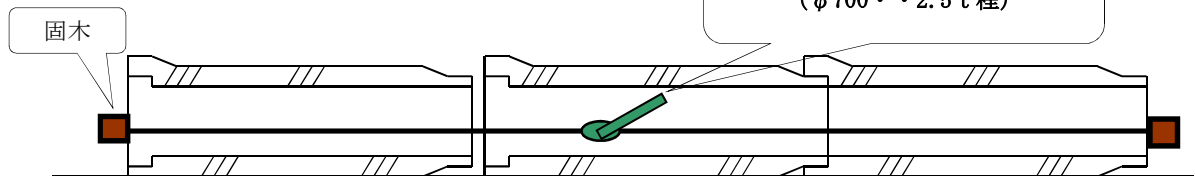
- ① 後付けゴムジョイント (Gリング形) には、右図の向きで装着して下さい。逆向きに装着するとゴムが回転せず、**接合ができません**。
- ② 後付けゴムジョイント (Gリング) には、**滑剤は絶対に使用しない**で下さい。滑剤を使用しますと、下図のようにゴムが回転しなくなり、止水能力が大幅に低下します。



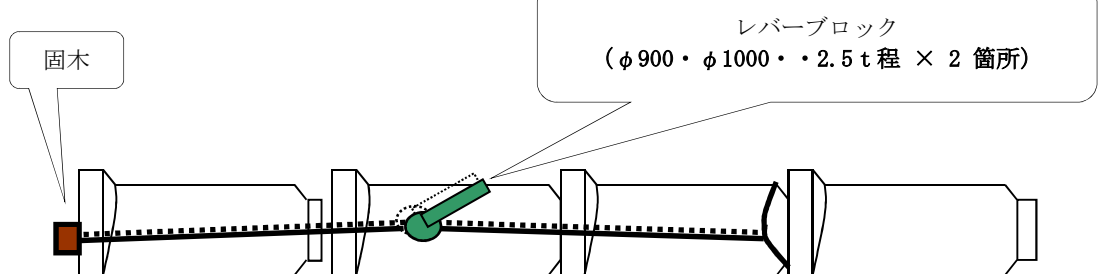
φ 250～φ 450の場合(1点絞り)



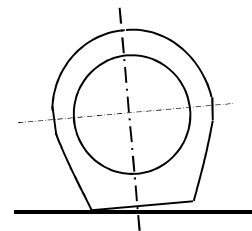
φ 700・φ 800の場合(中央1点絞り)



φ 900～φ 1200の場合(側部 2点絞り)



注) 右図のように傾けて接合すると、管体が浮上した状態になります。ゴムジョイントでしっかり接合するので、バール等で調整しても直すことができませんので、十分注意して下さい。



接合部の許容隙間

- ① スポゴット側の上部に15mm幅の黒いマークが付けてあります。ジョイントした時に、ソケット端面が黒いマークにかかるまで差し込んで下さい。
- ② 表-2は、黒いマークまで差し込まれた場合の、許容隙間表です。

表-2 接合部の許容隙間表 (単位mm)

(埋込ゴムジョイントタイプの台付管の場合)

呼び径	内側隙間	外側
300～600	10～25	限界線の範囲内
1100・1200		

(後付けゴムジョイントタイプの台付管の場合)

呼び径	内側隙間	外側
150～250	4～15	限界線の範囲内
700～1000		

